

令和6年度

34th

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

入賞作品

主催 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会
(栗原市、登米市、(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)
後援 宮城県、(一社)栗原市観光物産協会、(一社)登米市観光物産協会、
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、
河北新報社、読売新聞東北総局、朝日新聞仙台総局、
毎日新聞仙台支局

入 賞 者

各 賞	題	氏 名	住 所
最優秀賞 (宮 城 県 知 事 賞)	息を合わせて！	日 野 俊 文	宮城郡七ヶ浜町
優 秀 賞 (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	ようこそ！伊豆沼へ	遠 藤 宏 昭	仙台市青葉区
金 賞 (栗 原 市 長 賞)	伊豆沼賛歌	高 田 毅	福島県南相馬市
金 賞 (登 米 市 長 賞)	君は、まばゆい	林 茂	仙台市若林区
銀 賞 (栗原市観光物産協会会長賞)	大空への飛翔	佐々木 朋 子	石巻市桃生町
銀 賞 (登米市観光物産協会会長賞)	マガンの福笑い	青 田 真	宮城郡利府町
銀 賞 (宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)	思い出の内沼	佐々木 甚 彦	宮城郡利府町
銅 賞 (河北新報社賞)	内沼慕情 (うちぬまぼじょう)	高 橋 貞 勝	岩手県奥州市
銅 賞 (読売新聞東北総局長賞)	秋空に羽ばたく マガンの群れ	佐 藤 勁 太	仙台市青葉区
銅 賞 (朝日新聞仙台総局長賞)	朝飯中にゴメン！ 突っ込むカモシカ	大日向 圭 一	千葉県船橋市
銅 賞 (毎日新聞仙台支局長賞)	コウノトリ飛ぶ	芳 賀 利 文	遠田郡美里町
入 選	もう直ぐ春だね	樽 林 慎 二	大崎市岩出山
入 選	雪の妖精	佐 藤 直 樹	登米市迫町
入 選	伊豆沼ブルーモーメント	渡 辺 武 浩	登米市登米町
入 選	「百羽百様」	鈴 木 宏 子	加美郡加美町
入 選	命の羽ばたき、 真雁たちの夜明け	荒 谷 拓 実	石巻市向陽町
入 選	躍 動	佐 藤 浩 章	福島県南相馬市
入 選	朝だ、起きっぺす	藤 村 和 也	気仙沼市九条
入 選	蓮花を知る者、 知らない者	浅 川 崇 典	岩手県住田町
入 選	蝶との対話	跡 部 義 則	仙台市青葉区

総 評

たくさんの応募作品より、審査をさせていただきました。伊豆沼・内沼といえば早朝のマガンの一斉の飛びたちという印象が強いのですが、マガン以外の被写体も多かった様に感じました。今年是最優秀賞、優秀賞ともにマガンではない作品でした。気候変動の影響なのか、北海道の鳥として人気が出たシマエナガが伊豆沼にやってきたり、コウノトリの飛翔の姿を捉えたものなど、普段見かけない野鳥の作品もありました。素晴らしい自然の定番の光景は守らなければなりません、変化している自然も記録する価値が高いと思います。自然を守り、ルールを守り、かけがえのない自然の大切さをアピールできるコンテストであることを願います。

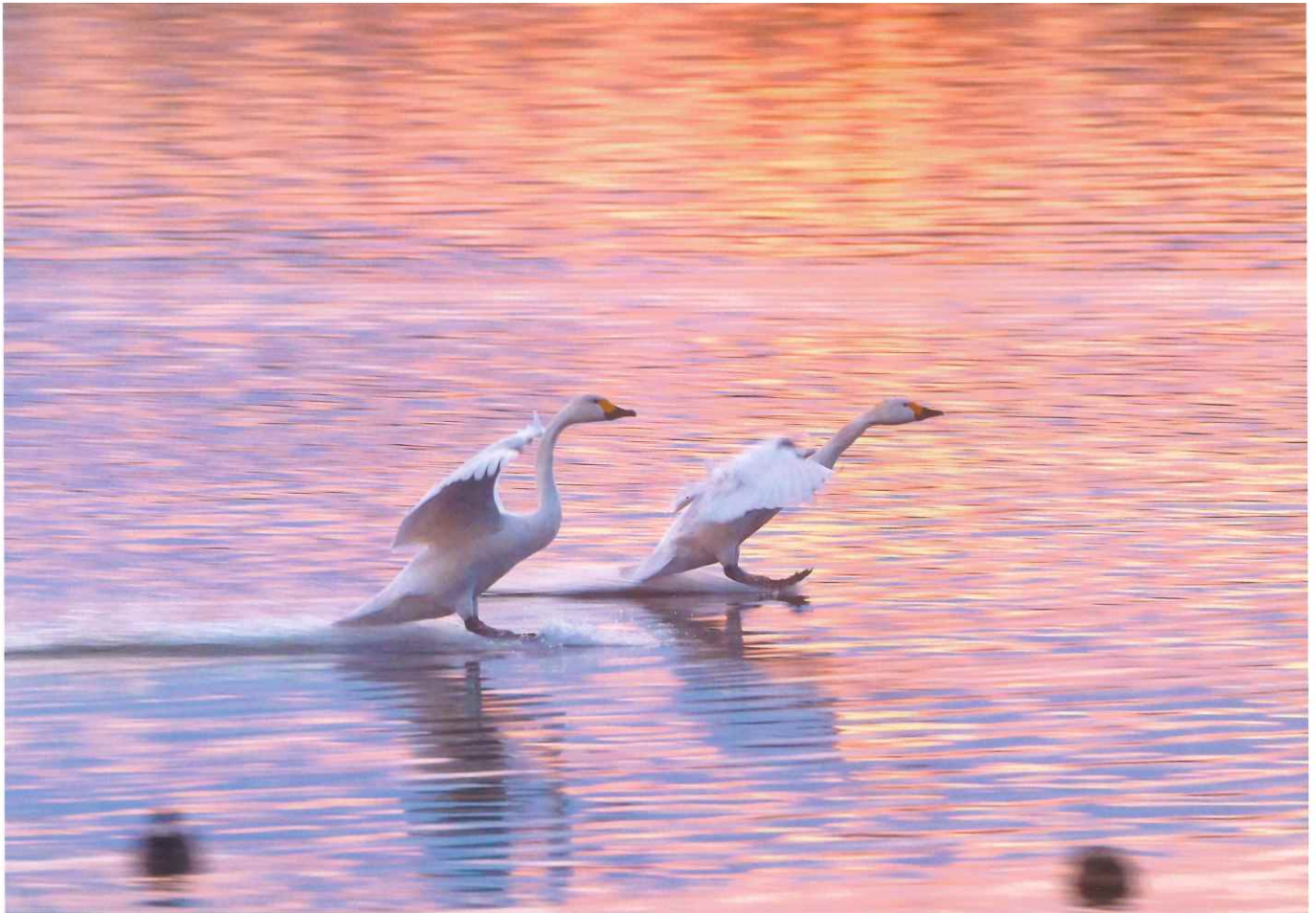
今回は当フォトコンテスト第35回であり、伊豆沼・内沼のラムサール条約登録40周年の記念回となります。応募条件の撮影地や撮影日の範囲も拡大される様です。皆さんの傑作をお待ちしています。

フォトコンテスト審査員 井 村 淳 (いむら じゅん)



1971年生まれ。横浜市在住。
日本写真芸術専門学校卒業。
竹内敏信氏の助手を経てフリーになる。
サバンナの動物を中心に世界の野生動物や日本の自然など「野生」を求めて活動。
(社)日本写真家協会会員。チーター保護基金ジャパン名誉会員。キャノンEOS学園講師など。
著書『大地の鼓動』
『あざらしたまご』他。

ホームページ
(J's WORLD Nature Photographer
Jun Imura's website)

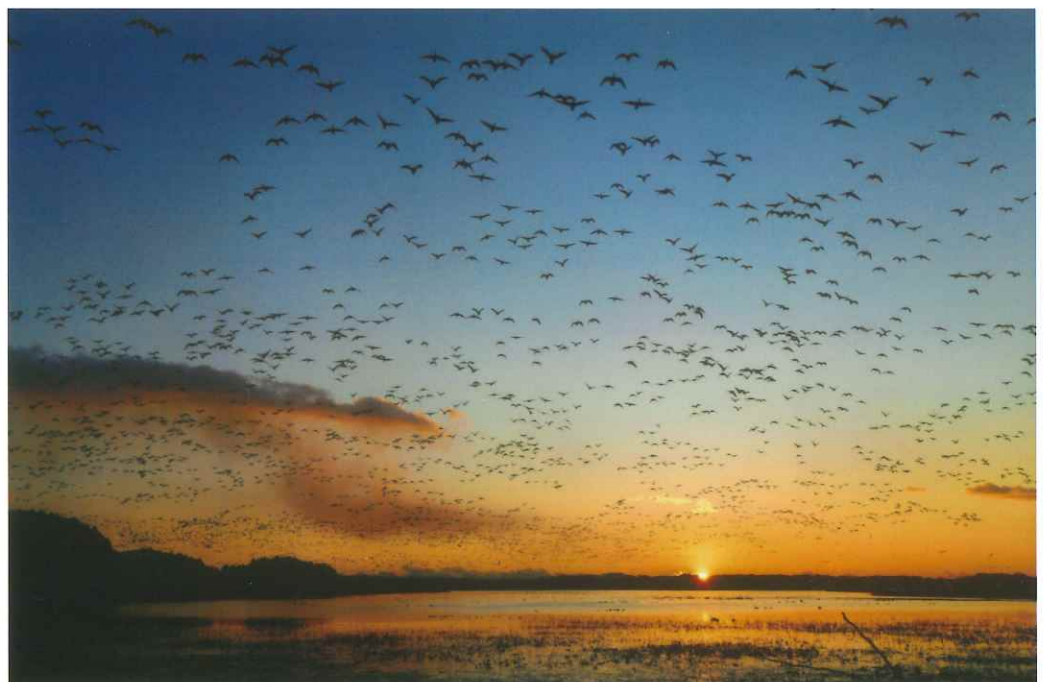


【評】ハクチョウが着水するシーンをシャッター速度を少し遅くし、流し撮りにしたことで躍動感があります。2羽のハクチョウが同時に被写界深度内で、同じポーズで、かっちりシャープに捉えられているのは素晴らしいです。さらに、その背景は夕焼けが映り込んだ水面だと思いましたが、ちょうどきれいな位置に捉えられています。カメラポジションが最適です。彩度を若干調整されているのかと思いますが、とてもファンタジーな画面に仕上がっていて目を引きました。

金賞
(栗原市長賞)
「伊豆沼賛歌」

高田 毅

【評】東の空の低いところに若干の雲がある様ですが、ちょうどその上から太陽が出た時に、マガンが一斉に飛び立った絶好のタイミングです。太陽を少し右に寄せた構図が風景としてもとても良いバランスで、水面に映り込んだ空も含めてグラデーションがきれいです。太陽の存在感をしっかりと見せる様、明るくなりすぎない露出設定も良いです。





優秀賞

(宮城県伊豆沼・内沼
環境保全財団理事長賞)

「ようこそ！伊豆沼へ」

遠藤 宏昭

【評】伊豆沼にシマエナガ？と驚く被写体です。シマエナガの“シマ”は北海道を指すそうなので北海道でしか見られないと思っていました。その驚きが第一印象ですが、やはり、かわいさも伝わってきます。思わずにやけてしまいます。そして、この小さな被写体を浅い被写界深度でしっかりと顔にピントを合わせ、きれいな背景のボケの中に浮かび上がらせています。アンバーを強めにして暖かな空気感も効果的でした。

金賞（登米市長賞）「君は、まばゆい」

林 茂

【評】沼のカモ類たちは人の近くに寄ってきますが、カメラを地面レベルまで下げてカモ目線の世界観が面白いです。1羽のカモの目の辺りに太陽を重ね、絞り込んでいっているのですね、ピカピカの光芒を見せられているのが印象的です。また2羽が向かい合っているように見せることで、会話している様に連想させられます。アイデアと技術が功を奏した作品です。



銀賞

(栗原市観光物産協会会長賞)
「大空への飛翔」

佐々木朋子

【評】伊豆沼、内沼の一大イベントと言えるマガンの早朝の一斉の飛び立ちです。望遠レンズで切り取ることで、圧縮効果によりマガンの密度が高く見え迫力があります。日の出から少し時間が経った太陽は光が強く露出が難しくなりますが、空のちょうど良い明るさと太陽の輪郭を捉えた適正露出だと思います。



銀賞

(登米市観光物産協会会長賞)
「マガンの福笑い」

青田 真

【評】見た瞬間に「おもしろ！」と思ってしまいました。人間の本能で3つの点を顔として見ようとするシミュラクラ現象どころではなく、どう見ても顔ですね。太陽は光が強く、その前を通過するマガンが明るくなり消えてしまいがちですが、しっかりシルエットが見える露出設定も良かったです。



銀賞

(宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)
「思い出の内沼」

佐々木基彦

【評】釣竿を持った少年らをシルエットで浮かび上がらせた見せ方が面白いです。そのシルエットから、表情は見えませんが笑顔で会話をしているように感じます。夕方の空が水面にも映り込んで画面全体がモノトーンでさらにやや暗めの露出設定でノスタルジック感を演出していると思います。



銅賞（河北新報社賞）

「内沼慕情（うちぬまぼじょう）」 高橋 貞勝



【評】 黒地に白いスポットが満天の星空にも見えますし、降雪にも見えます。実際は何でしょうか？水面に浮かぶ羽毛にしては多い…と職業柄、分析してしまう悪い癖です。客観的に見て綺麗だと思いました。背景に日陰などの暗いところが映り込む様なポジションが良いです。

銅賞（読売新聞東北総局長賞）

「秋空に羽ばたくマガンの群れ」 佐藤 勁太



【評】 マガンが一斉に飛び立つ場面を、フィッシュアイレンズの効果で直線を歪曲させる大胆な狙い方が目を引きました。いわし雲やひつじ雲の様な秋らしい空と夏の名残であるハスの葉が朝の光を受けてどちらも美しく輝いています。その中をマガンの群れが飛んでいるのが素晴らしい。

銅賞（朝日新聞仙台総局長賞）

「朝飯中にゴメン！突込むカモシカ」 大日向圭一



【評】 田んぼで食事をしているマガンの群れに1頭のシカが乱入してきたのですね。マガンが慌てて逃げているのがわかります。また、シカも走っているの何があったのだらうと見る人が考えさせられます。シカが登場するのは珍しいです。タイトルにカモシカとありますが恐らく若いオスのニホンジカかと。

銅賞（毎日新聞仙台支局長賞）

「コウノトリ飛ぶ」 芳賀 利文



【評】 伊豆沼界隈にはコウノトリも過去に何度か迷い込んでくるそうですが、滅多に見られない珍しい鳥だと思います。体が大きく白いので地面に立っていれば目立つと思いますが、飛んでいるところでピントが顔にしっかりと合い、飛翔の形も良いタイミングで素晴らしいです。

入選 「もう直ぐ春だね」

榎林 慎二



【評】 枯れた花が残る枝に止まるシマエナガがこちらを見つめたかわい瞬間です。背景には、ほかすことで柔らかくなった咲き誇る黄色い花が春を連想させてくれます。シマエナガの顔の白が少し白飛び気味なのが惜しいです。

入選 「雪の妖精」

佐藤 直樹



【評】 枝にしっかりとつかまっているシマエナガのクビを傾げたような表情がかわいく印象的です。かなり接近した撮影距離なのでしょう。ピントも良くふわふわの質感もあります。ハイライトを抑え中間トーンを少し明るくするとより良いです。

入選 「伊豆沼ブルーモーメント」 渡辺 武浩



【評】日の出前や日没後のブルーモーメントタイムの写真は私も大好きで良く撮影します。広く切り取った水面が青く染まり、独特な空気感に包まれています。また、点景に入れた2羽の鳥と波紋のとり入れ方が良いです。

入選 「命の羽ばたき、真雁たちの夜明け」 荒谷 拓実



【評】かなりの数のマガンが一齐に飛び立った場面ですね。水面にもまだ沢山いますし、手前寄りに向かって飛んでいるのもいます。天気は晴れというより多くの雲がありますが、それがきれいで面白い背景になっていると思います。

入選 「躍 動」 佐藤 浩章



【評】天気が良く太陽が出ている時は、マガンの飛び立ちと太陽と一緒に捉えようとしがちですが、あえて、太陽や水面の太陽の映り込みをずらして狙っています。画面全体のコントラストが落ち着いて微妙なトーンがきれいです。

入選 「蓮花を知る者、知らない者」 浅川 崇典



【評】年中ここにいるサギと花が咲く時期にはないハクチョウということでしょうか。とても詩的な画題ですね。空を映したきれいな水面に浮かぶサギとハクチョウとハスの茎のシンプルなシルエットに物語を感じます。

入選 「百羽百様」 鈴木 宏子



【評】雲の上から昇る朝日が出切る前に飛び立ったマガンの飛び立ちを望遠レンズの圧縮効果も使い、より沢山を画面に取り入れられてインパクトがあります。同じ形で飛んでいるのは二つとない百羽百様の姿が写っていますね。

入選 「朝だ、起きっぺす」 藤村 和也



【評】9羽の白鳥が朝日に照らされてようやくお目覚めの様子ですね。山を望遠レンズで引き寄せたのも良いです。明るめの露出で朝のイメージを見せるのも良いですが、白飛びしない程度に露出を抑えたらなお良いと思います。

入選 「蝶との対話」 跡部 義則



【評】夏休みの課題の自由研究で標本づくりをしているのでしょうか。とても集中して真剣に作業をしている様子を捉えています。まさに、蝶と対話をしながらという雰囲気です。右手首のカラフルなおしゃれなゴムが気になります。